

（様式第13号）

大阪市地域公共人材 派遣報告シート

■事務局記入 ■人材記入

派遣通知（団体）No.		派遣人材名 上：登録no 中：派遣通知no 下：名前	18-002	13-027	15-007	
			池田 弘志	宮永 富雄	小谷川 勝	
派遣先（名称）	ローレルハイツ大淀振興町会					
派遣計画書の内容	初回ヒアリング		2025年1月30日		3回次 方向性のまとめ	
	1回次 現状の整理				4回次 予備日	
	2回次 重点整理				5回次	
派遣回次	初回ヒアリング		派遣日時		2025年1月30日 18:20～20:00	
参加者	地域 4名	人材事務局 3名	区役所 2名	その他 2名	（ ） 名	
活動内容	<div>●派遣依頼内容 今後の町会の安定的な運営や次世代への引継ぎを見据え、一般社団法人化を検討するにあたって、法人化並びに法人運営についての支援並びに法人化が難しい場合は、別の方法をアドバイスする。</div> <div>●支援内容・プログラム ・初回ヒアリングとして、 出席者の自己紹介を兼ねたアイスブレイク 派遣依頼者からの「お困りごと」の説明と質疑 課題の整理と確認 派遣日程の決定（派遣3回、予備日）</div> <div>●成果 以下の事項についての確認が出来た。 ・ローレルハイツ大淀振興町会は、既に地方自治法上の認可地縁団体となっていること。 ・会館の敷地はローレルハイツ大淀振興町会の所有で、建物は大阪市の所有であること。 ・会館の運営は、協定書では本庄地域全体で構成する運営委員会が行うこととなっているが、実際はローレルハイツ大淀振興町会の方が、認可地縁団体の事務手続き総体と会館の土地・建物の管理運営を一手に引き受けていること。 ・ローレルハイツ大淀振興町会の方としては、高齢化と後継者が居ないことから、本庄会館の今後の存続が危ぶまれるので、本庄地域活動協議会として会館の管理運営を引き継いでほしいということ。 ・本庄地域活動協議会の方は、一般社団法人化することによって問題を解決できないかと思っていること。</div>					
所感	登録no.	名前	所感			
			・出席者全員が良い雰囲気での意見交換が出来たと思う。 ・ローレルハイツ大淀振興町会の方の思いはよく分かるが、必ずしも地域内での共感が得られるとは限らないのではないかと。地域活動協議会の方が一般社団法人化を口にするのは、会館の管理運営にかかる負担の分散（地域活動協議会構成団体としては事務負担等の増）を理解させるための方策として提案しているのではないかと考える。 ・現状の分析、課題把握、方策の検討までは進むことができるが、その先の方向性を見出すのは難しいかもしれない。			
			・選ぶ方向性によって、どういう問題が発生するか見極める必要があると思いました。 ・固定資産税減免については、大阪市のHP「固定資産税および都市計画税の減免」より、地活協及び地活協参加団体の集会所及び倉庫は100%減免であり、問題なし。 ・一般社団法人は、手続きが簡単だが、設立時に手数料が必要。NPO法人は無料で設立できるが、手続きが煩雑という難点あり。 ・法人の税金は、一般社団法人は、収益事業に該当せず、利益を配当しないのであれば非営利になります。税務署に直接確認することも一案です。 ・本庄地活協が認可地縁団体になるのは可能なのか？地活協が無理なら、本庄連合振興町会が認可地縁団体という方向性も考えられる。 ・この他にも、細かい問題点が、いろいろ出て来るかも知れません。			
			・初回ヒアリングとしては、深堀できた意見交換であった。 ・地域活動協議会、あるいは連合町会の法人化を目指すとのことだが、本庄会館の運営を如何に地域の人々で分担するかということが目的であるように思われる。法人化の方法を模索するのではなく、運営の在り方を模索することのほうが先決であるように感じられた。			
事務局への連絡など						